

# みなかみ町

## 交流による国際観光振興



みなかみ町観光商工課

### はじめに

群馬県利根郡みなかみ町は、2005年10月1日に水上町、月夜野町、新治村が合併して誕生した新しい町です。群馬県の最北部に位置し、東京から約150km、JR上越新幹線で1時間20分（上毛高原駅）、関越自動車道で約2時間（月夜野、水上インター）と、首都圏からのアクセスに恵まれています。

町の主要産業は観光と農業です。

群馬県内でも屈指の観光地であり、水上、谷川、猿ヶ京、法師、宝川、上牧、湯宿、川古、湯ノ小屋、月夜野、うのせ、向山、上の原、赤岩、奥平、奈女沢、湯桧曾と17カ所の温泉地があります。

温泉の他にも多くの自然資源に恵まれています。日本百名山の一つである「谷川岳」、夏でも雪渓が残る「一の倉沢」、流域面積日本一を誇る「利根川」、その利根川の源流には首都圏約2,900万人の水瓶となっている5つのダムがあり、これら自然資源を活かしたアウトドア産業も盛んです。

なかでも利根川を利用したラフティングや山の沢を利用したキャニオニングは、近年特に注目を浴びてきています。この分野では、みなかみ町の自然に惚れ込んで海外から移住して、自らアウトドア会社を経営しているニュージーランド人がいます。外国人の視点から、アウトドア事業を發展させ、今では多くの外国人スタッフを抱え海外への情報発信も行っています。この会社の情報（ネ

ットや口コミ）により、今ではニュージーランドやオーストラリア、カナダ、香港、台湾からの観光客も増えてきました。これらは、民間が独自にインバウンド対策に力を入れている例です。

### 行政の取り組み

みなかみ町の行政としての取り組みはどうだったのでしょうか？ 合併した05年10月から観光商工課内に「国際観光係」を設置し、群馬県観光物産課と協力して国際観光の推進をしてきました。具体的には、海外エージェントや海外マスコミの招聘事業、また首都圏で仕事をしているランドオペレーターの招聘事業などです。

招聘事業の主体となる群馬県と協力しながら、外国人の方に喜ばれるモデルコースを作成して随行案内するのが町の役割でした。町が紹介するのは、谷川岳・一の倉沢、ガラス作品体験のできる「びーどろパーク」、そして体験の里「たくみの里」です。

#### <多くの外国人観光客が訪れる「たくみの里」>

広大な田園地帯に「和紙の家」「陶芸の家」「竹細工の家」など地元に残る伝統工芸や「木織りの家」「鈴の家」「マッチ絵の家」など一風変わった工芸体験など20軒以上の「たくみの家」が点在しているたくみの里は、体験せずとも歩くだけで昔ながらの景色を楽しむことができます。

街道沿いの古い建物を利用してつくられたたくみの里は、日本の伝統文化を効率的に体験できる



コンゴ共和国のたくみの里視察

ため、日本の小・中学校、高校の修学旅行地として注目を集めています。最近では外国人観光客も多く見られるようになってきました。

たくみの里を訪れる外国人観光客は、国別では台湾が最も多く、次に韓国・香港といったアジアからの観光客が目立ちます。これは群馬県を訪れる国別外国人観光客の順位とほぼ一致します。

台湾からは、一般団体客のほかに、高校の教育旅行先としてたくみの里を訪れる学校も出始めました。その理由としては、①日本の伝統文化を体験できる、②古い建物や町並が保存されている、③景色が美しい、④安心・安全である、などを挙げることができます。

今でこそたくみの里の職人さんや住民の方達も慣れてきて、海外からの観光客にも上手に対応してくれるようになりましたが、4年ほど前はやはり問題が多くありました。

まず何とんでも「言葉が通じない」ことに対する拒絶心理。団体客の場合はたいてい通訳の人も随行しているので大丈夫だからと説明しても、断られることが多かったのです。また、何とか受け入れてくれた場合でも「言葉の通じる役場職員にずっとそばにいてもらわなければ困る」という店も多く、一度に100人以上の体験が来たときなどは3軒の体験工房を同時に駆け回ってフォロー体制を整えたこともあります。

また言葉の次に多い問題は食文化の違いです。

たくみの里ではそば打ち体験ができるのですが、これは海外の人に人気です。麺といえば台湾や中国の方が本場ですから、どうして人気があるのか聞いてみたところ、「自分で麺を打つ体験はしたことがないから」ということでした。

そば打ち体験した蕎麦はざる蕎麦で提供するのが一般的なのですが、アジアの方々は冷たい麺を食べる習慣がなく、何十人分ものざる蕎麦が完成

していざ食事といった段階で「こんな冷たい物は食べられない」と言われ、急いで温め直したこともありました。また台湾のお客様に多いのが「素食」といういわゆるベジタリアンの方で、体験後の蕎麦を温かい汁で提供したところ「つゆの出汁を鰹節でとっているものは食べられない」と言われ、昆布出汁で作り直したこともありました。

このような問題が多くあって、エージェントと体験現場の人達の間に入った私としては、現場にお手数と迷惑をかけていることに非常に心苦しいものがありました。しかし何度か受け入れることにより、当初不安がっていた職人さん達も「やってみれば何とかなった」「何を言っているか分からないけど楽しそうだったから良かった」など好意的な感想を多くいただきホッとしました。

今では外国人観光客の予約が入っても慌てることもなく、また現場の人達の中には体験指導に必要な中国語や英語を勉強したいという人達も出てきました。

町としてはそれまで道路看板、観光パンフレットを「英語」「中国語（簡体字）」「中国語（繁体字）」「韓国語」の4カ国語で整備していましたが、そういった現場の人の声を受け、そば打ち体験指導マニュアルを英語や中国で作成したり、また観光客対応の「中国語講座」を開催したりしてきました。

### <増える海外からの視察>

またたくみの里の特徴として、海外からの視察が多いことが挙げられます。

たくみの里は、約20年前に合併前の新治村<sup>にいほろむら</sup>の農村公園構想に基づき、村おこしの一環として作られた地域です。周辺の猿ヶ京温泉、湯宿温泉への宿泊客が減少傾向にあり、また農家の後継者不足による農業衰退にある中で「農業と観光を一体化させた観光地づくり」を目指し作られました。

何も無い田園地帯に、木工・竹細工・和紙・陶芸など6軒の体験工房を点在させ、昔から祀られている道祖神と共に観光地として売り出したのがきっかけでした。体験工房を1カ所に集中させず、田んぼや畑が広がる田園地帯に点在させることにより田舎の里山風景を楽しんでもらえることに成

功し、体験工房周辺の農家も観光農園や農業体験により営業を続けることが可能になりました。

衰退傾向にあった農村地域が年間40万人以上の観光客に訪れてもらう地域となった地域振興の成功例として、海外、特に韓国から多くの視察が訪れます。視察団は、韓国政府、韓国の市町村単位行政、農業大学、農協、地域振興研究者など様々です。

韓国の視察団は群馬県を經由せずに直接みなかみ町に連絡がくることが多く、4年前に担当についていた当時、そのことを不思議に思った私が理由を聞いてみたところ、「農村地域振興のモデルケースとして韓国の大学やネットで取り上げられている」とのことでした。

これは非常に有り難いことで、それまで観光地としてしか宣伝してこなかった私に発想を与えてくれました。その後、観光だけでなく「まちづくり」の視点からも中国や香港、アフリカからも農業関係者が視察に訪れてくれるようになり、結果として観光宣伝活動に役立てることができるようになりました。

### <海外交流事業>

観光・視察の他に現在みなかみ町が行っている事業に、海外交流事業があります。その一つに中国広東省にある大学との交流があります。



広東省からの弓道友好訪日団

日本の高校を退職されてから中国に渡り、日本弓道を広めている内藤先生という方がいらっしゃいます。内藤先生とみなかみ町在住の後閑

先生という弓道の先生との親交がきっかけで3年前、中国広東省珠海市にある大学の「弓道友好訪日団」がみなかみ町を訪れてくれました。1泊2日という短い滞在でしたが、学生達は非常に熱心に弓道をはじめ日本文化を理解しようとしていました。そのあまりに礼儀正しく真摯な姿勢に私たちみなかみ町の住民は感動し、またこの学生達を異国の地で指導されている内藤先生に心から敬意

を払いました。

この訪日団は2007年から3年間続けて来ていますが、これは内藤先生の「中国の学生に日本文化を勉強させてあげたい」という信念から、ほぼ個人的なご尽力で実現させていただいたものです。これを何とか交流事業として結びつけ、双方の文化交流や産業交流にも有益な形にするために、交流を軸とした中国との国際観光事業計画を現在進めています。

珠海市は、広東省南部に位置する経済特区で、発展の著しい都市です。この珠海市にはなく、みなかみ町が持っている観光資源は、なんとっても冬の雪です。そこで09年度は試験的に現地大学で「日本群馬県みなかみ町でのスキー研修」ツアーを企画し募集したところ、十数名の学生と先生達が訪れてくれ、町内スキークラブや高校生、みなかみ町国際交流協会など多くの人達との交流を行うことができました。



中国で募集したスキー研修

今後はこのスキー研修ツアーをはじめ、たくみの里を活かした文化交流、みなかみ町の特産の一つでもあるリンゴの産業交流、そして現地大学とみなかみ町内学校による学生交流にまで広げていきたいと考えています。

## 交流を軸とした国際観光の振興

これら構想の実現にはまだまだ時間がかかると思います。上海万博に代表されるように発展著しい中国に対しては、国際観光としてまだまだ取り組むべき課題と可能性が山積しています。

最近では町内ホテルの中でも中国人研修生をスタッフとして配置し、アジアからのインバウンド対応をしている施設が多くなってきました。

みなかみ町としては、ホテル・旅館その他観光施設の方々と協力体制を整え、交流を軸にした国際観光振興を今後も進めていきたいと考えています。